

あいち国際女性映画祭 2015

昨日のトークから

デイリーニュース vol.4 (2015/9/4)

『養女物語』

中国映画研究者
小坂史子さん



リウ・シャオコー監督の来日がビザの関係でキャンセルになったため、中国・台湾映画界で活躍なさっている小坂史子さんを迎えてのトークになりました。「監督から先ほどウィチャットで「人生は思い通りにはいかないことが多いけれど、大切なのは人を許せるかということがテーマです」とコメントをいただきました。皆さんのご意見を聞かせてくださいとのこと。さて、中国映画界はここ 10 年ほどでめまぐるしく変わっています。700 本くらいの作品が作られています、劇場にかかるのは 70 本もないでしょう。それは劇場がシネコン化して観客が大作映画か有名俳優の出ている作品しか見ないためです。海外映画祭で受賞するようなアート系の作品も、インディペンデント系の作品も、さらにこの『養女物語』のような伝統的な物語や作り方をされた「王道」中国映画も劇場で上映されません。そんな困難な状況の中で、この作品を撮り始めた当時 25 歳の女性が 3 年かけて、資金集めからオリジナルの脚本・監督まで一人で撮り上げたのです。応援したい監督ですね」

『けんじ君の春』

森田亜紀監督
俳優 戸塚純貴さん
俳優 布施紀行さん
俳優 柴田明良さん



「もとの舞台劇を見た映画の助監督や撮影の方に「これ映画にしたら」と言われてその気になりました」と監督。ダメ男けんじが引き起こす騒動を描くこの作品。監督はけんじの姉役で出演も。「けんじ役の戸塚くんはキャラがそのまんまなんです。本人は違うって言いますが」と言われた戸塚さん「二枚目半ってのは初めて言われて(笑)。いつもはクールで通してるんですが」。それを聞いたけんじの親友役の布施紀行さんは大爆笑。すかさず女装好きは役だけ?とつっこまれ「あ、どうせなら今度はフルメイクとかして完全な女装の役してみたい、かも」と開き直る布施さん。監督「女の子よりきれいになりそうで悔しいかも(笑)」まるで掛け合い漫才のようなトークです。が、実は戸塚さんはジュノン・スーパーボーイ出身の仮面ライダー経験者。ライダーといえもう一人の登壇者、先生役の柴田明良さんも「あー、僕も仮面ライダー出てました」。イケメンぞろいの出演者による異色のトークになりました。

『彦とベガ』

谷口未央監督
女優 竹下かおりさん



「主人公の比古朝雄の人物像は主演の川津祐介さんのイメージから作り上げました。私自身も介護士をやっており、その経験を通して感じたことを元にこの作品を作りました」と監督。娘役を演じた竹下さんは、「この役を演じるにあたって実の両親のことを考えました。両親を心配する思いはありますが、その反面で自分にも生活もあり、どちらを優先するべきかという葛藤を感じながら演じました」と語られました。これを受けて監督は「認知症患者を持つご家族は大変ですが、生活の中で本人や家族が何かキラメキを感じながら、認知症と向き合い、どう生きていくのが大切であり、正にそれを描きたかったのです」と映画へ込めた思いを語り、続けて「今後も人間の心の些細な動きを捉えた多くの人に共感してもらえる映画を作っていきたい」と話されました。満員の会場からは映画に対する賞賛の拍手が送られました。

『日本一幸せな従業員をつくる！

～ホテルアソシア名古屋ターミナルの挑戦～
岩崎靖子監督



「アソシアと出会ったのは閉館の 10 日前。自分たちの記録にカメラを回していたのがきっかけで最後の 2 日間を追うことになりました。3 日間のフィルムで閉館の時に柴田さんへのサプライズ映像をと思ったのですが、従業員の方の笑顔や涙を見てこれは映画にしくなくちゃいかんと思ったら、もうゴールしか見えなくなる人なんですよ私(笑)。幸い従業員の中に非常に几帳面な方がいて、昔の写真や資料をとってあったんですね。これで、いける!と思いました(笑)。柴田さんって流れを変える名人なんです。いつもご機嫌で、人のいいところを見つけてはそれを口に出す。「優しくされる経験をすれば人は優しくなれる。能力を越えさせるのは一人一人の熱意だ」というのが柴田さんの教えの一つですが、実際に反響が凄くて、映画を見て考えを変えてみたら仕事が早くなり値切られもしなくなったという人がいました。私、いつも言うんですよ。この映画を見ると仕事を値切られなくなるって(笑)」感激の感想と笑いと拍手に包まれたトークでした。

明日の見どころ

『第三の男』上映&戸田奈津子さん特別講演 ウィルホール/10:00~11:50(上映)
12:00~13:00(講演)

第二次世界大戦後のウィーン。親友ハリー・ライムの招きでウィーンを訪れた小説家ホリー・マーチンスは、到着早々ハリーの死を知らされる。ハリーの死に疑問を感じたホリーは死の真相を探ろうと決意。その結果、彼の死を目撃した男が三人いることを突き止め、そのうち2人は判ったが、“第三の男”だけはどうしても判らない。この古典的名作『第三の男』上映後、日本を代表する字幕翻訳者の戸田奈津子さんが「すべての始まり、“第三の男”」をテーマに講演されます。戸田さんを決定的に映画ファンにした映画が『第三の男』だそうです。どうぞお楽しみに！



「共に生きて」 大会議室/10:00~11:10

重いリウマチを抱えながら夢に向かって生き抜き、7本の映画を撮り続けた槇坪夢鶴子監督と彼女を心から尊敬し支え続けた映画プロデューサーの光永憲之。41年間に渡る夫婦の歴史を紐解きながら、二人の絆を永遠に語り伝える愛の物語。当映画祭で『私が SuKi』『老親』



『星の国から孫ふたり』の3作品を上映し感動を呼んだ槇坪監督を追い続けたドキュメンタリーです。上映後、ご子息の光永龍太郎さんと脚本家の吉田香里さんによるトークイベントがあります。是非お越しください！

まつかわゆまの耳寄り情報

『運命というもの』9月5日16時30分よりウィルホールにて上映

いい子の皆さんは真似してはいけませんが(笑)空港で重量オーバーの荷物を「一部僕の荷物に入れてあげましょう」という申し出を女の子が受けることから始まる“プレ・ラブストーリー”「恋がはじまる10分前」映画です。人気スターが共演するスクリーンボール・コメディであり、ローマ空港で始まりフィリピンの避暑地バギオで育まれる恋という観光映画兼ロード・ムービーでもあるという贅沢さ。少女漫画か韓流ラブコメかという“キュンキュン”エピソードと会話がスピーディに繰り広げられ、フィリピン映画の守備範囲の広さを見せつけてくれました。今回の映画祭では3本のフィリピン映画が上映されますが、インディ系・女性監督という共通点を持ちながら、全くタイプの違う作品です。中でも本作は若い女性観客をひきつけ国内で大ヒットを記録。未練だらけの恋心という重い荷物を引きずってバスの旅を続ける二人に私は言いたい「早く気づけよっ!」。たぶん観客の皆さんもそう思うのでは?!

今日のプログラム

4階 ウィルホール

10:00~ 輝けるマロスの女性たち

12:40~ 0.5ミリ

*上映後トークイベント

18:10~ 福田敬子 - 女子柔道のパイオニア

*上映後トークイベント

3階 大会議室

10:00~ うるう年の少女

*上映後トークイベント

13:30~ あえかなる部屋 内藤礼と、光たち

*上映後トークイベント

17:00~ コンペ授賞式&グランプリ作品上映

